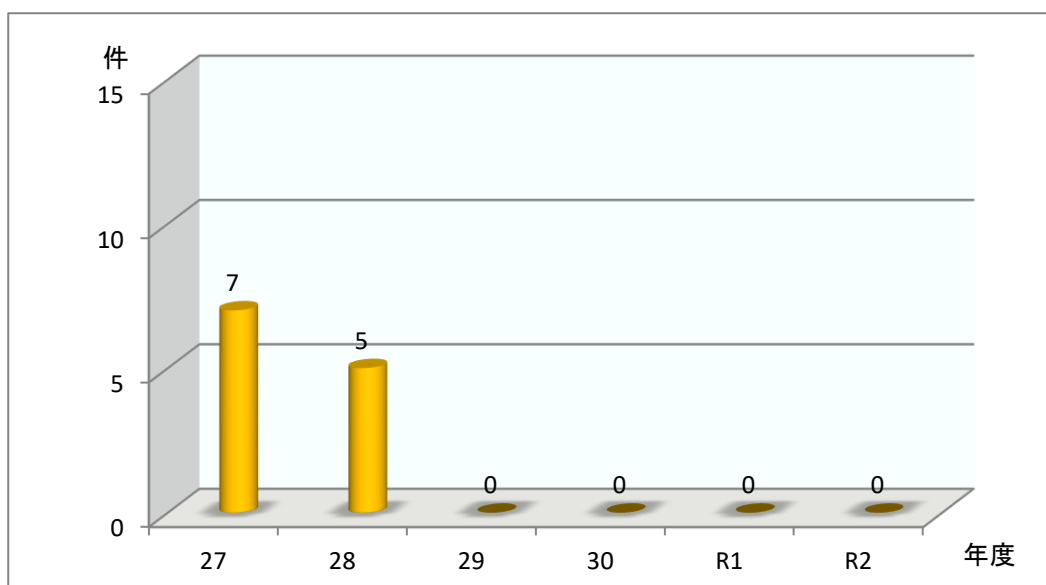


## 32 超重症児の手術件数

### 解説

「超重症児」とは食事機能、呼吸機能、消化器症状の有無などの項目により、より高度でより濃密な医学的管理を必要とされた小児のことです。超重症児を手術するには通常の小児の手術に比べ、より高度な医療技術と患者管理が必要となります。  
小児外科や麻酔科の医療の質の高さを表す指標です。

### 実績



### 自己点検評価

産科管理および新生児管理の進歩により、以前なら超重症におちいる患児が、母胎が適切に管理され、適切な時期に出産し、適切な新生児術前管理を受けることで、超重症に陥ることなく手術される症例が年々増加している。超重症児の手術件数が減少していることは産科管理・新生児管理の進歩の賜物と考えられる。

### 定義

医科診療報酬点数表における、「A212・1イ 超重症児入院診療加算」及び、「A212・2イ 準重症児入院診療加算」を算定した患者の手術（医科診療報酬点数表区分番号K920, K923, K924（輸血関連）以外の手術）件数。  
レセプト算定ベースで算出しています。

### 算式

実数